

第2回飯山市廃棄物減量等推進審議会 議事録

- 1 日 時 平成29年8月7日(月) 午後1時30分～午後3時
- 2 場 所 飯山市役所 4階 第一委員会室
- 3 出席者 別紙名簿のとおり
- 4 資料等 別添資料等のとおり
- 5 議 事 次のとおり

1 開会

(事務局)

- ・定刻となりましたので、これより第2回飯山市廃棄物減量等推進審議会を開催いたします。
- ・はじめに、丸山会長さんよりご挨拶をお願いいたします。

(会長あいさつ)

- ・皆さんご苦労様です。
- ・台風がちょっと心配なのですが、あまり被害の無いよう願いつつ、色々ごみのことを話し合っていきたいと思いますので、皆さんよろしくをお願いします。

(事務局)

- ・ありがとうございました。
- ・続きまして、審議委員さんが一名変更になっておりますので、ここで委嘱書の交付をさせていただきますと思います。
- ・商工会議所女性会の会長でありました岡田さんが退任ということで、後任を丸山さんにお勤めいただくこととなります。部長から委嘱書の交付をお願いいたします。

2 委嘱書の交付【清水部長より丸山靖子委員へ委嘱書の交付】

3 審議

(事務局)

- ・ありがとうございました。続きまして、審議に入らせていただきます。進行は会長さんをお願いします。

(会長)

- ・では、「(1)ごみ処理量の推移とごみ減量推進月間の結果について」、事務局よりお願いします。

(事務局)

- ・本日、皆様のお手元に資料をいくつかお配りしてございます。まず、資料の確認をお願いいたします。次第の次に資料がございまして、右上に資料ナンバーが振ってございます。
- ・資料1から5までございまして、お手元の資料をご確認いただければと思います。
- ・それではまず、ごみ処理量の推移とごみ減量推進月間の結果について説明させていただきます。資料1をご覧ください。こちらは、エコパーク寒川の搬入区分別ごみ処理量の推移をまとめてございます。
- ・前回の審議会で、類似の資料をお示しさせていただいているところではありますが、まず1

枚目につきましては、もえるごみの持ち込み区分別のものとなります。

- ・左手のグラフを見ていただきたいのですが、こちらはごみステーションから収集されたもえるごみということになります。ご覧いただくとおり、減少傾向にあることがお分かりいただけると思います。
- ・事業者が直接持ち込む分については増加傾向にあるということでございます。
- ・市民の方が直接持ち込む分と粗大ごみについては同じようなトレンドで推移していますが、左のグラフでは分かりにくいところもありますので、それを拡大したものが右のグラフとなります。
- ・2枚目については、エコパーク寒川に持ち込まれるもえないごみの量を、もえるごみと同じように表したグラフになります。
- ・もえないごみにつきましては、ごみステーション収集分と事業者直接搬入分は、やはり減っている傾向にあります。ただ、市民の方が直接持ち込まれる分が微増傾向にあるということでございます。
- ・これは今、空き家などが多くなっていて、粗大ごみなどを片付ける機会が多くなってきているのではないかと分析をしております。
- ・続きまして、資料2をご覧いただきたいのですが、こちらは各年度の7月ごみ・資源物処理量の推移をグラフで表したもので、7月のごみ減量推進月間が終了したため、平成22年度から29年度までの推移を表したものでございます。
- ・左上のグラフにつきましては、ごみと資源物の処理量の推移を表したもので、右上のグラフにつきましては、このうち資源物のみをピックアップして表示したグラフでございます。
- ・左下のグラフについては、もえるごみの処理量を、先ほどの資料1と同じようにエコパーク寒川への持ち込み区分別で表したものでございます。
- ・右下のグラフにつきましては、もえないごみの処理量をエコパーク寒川への持ち込み区分別で表したものでございます。
- ・左下のもえるごみのグラフを見ますと、ごみステーションから収集される分については減少傾向にあること、事業者が持ち込む分については増加傾向にあることがグラフから読み取れます。
- ・(1)の説明については以上でございますが、資料の説明だけ続けさせていただいてよろしいでしょうか。

(会長)

- ・そうですね。

(事務局)

- ・では続いて、「(2)一人一日あたり排出量について」ということですが、こちらは資料3をご覧ください。
- ・ごみ排出量少なさランキング全国1位というものでございますが、こちらは国の統計上、平成26年度実績で長野県がごみ排出量の少なさ初の全国第1位ということを受けて、昨年度、県で作成したポスターになります。
- ・平成26年度の県民一人一日あたりのごみ排出量は、838gという実績でございます。現在、県では800gを切ることを目標にして取り組みを行っております。この800g達成には、ミニトマト1個を19gと仮定しまして、1日あたり2個分の減を目安として取り組みをしている

ということでございます。

- ちなみに、このポスター作成後に平成 27 年度の実績がまとまりまして、結果は長野県が 2 年連続で 1 位になっております。平成 27 年度の結果については一人一日あたり 836 g で、平成 26 年度より 2 g 減少ということでございます。
- 続いて、資料 4 をご覧いただきたいと思えます。こちらについては、今の資料 3 も関係してくるわけですが、環境省で毎年実施しております一般廃棄物処理事業実態調査というものがございまして。
- これを基に、平成 21 年度から 27 年度までの一人一日あたりのごみ排出量をまとめたものになります。この表につきましては、生活系のごみ、事業系のごみ、その合計ごとに全国、県下、長野県 19 市、北信地域別にランク付けをしてあります。
- 順位については、表の中ほどの一人一日あたり排出量の下にランキングがございまして。こちらを参考にいただければと思えます。
- 飯山市につきましては、各資料の黄色で網掛けをした部分になります。1 枚につき 1 年度でまとめさせていただいておりますが、これを一括してまとめたものを資料 4 の最後のところに掲載させていただいております。
- これを見ますと、飯山市の平成 26 年度の一人一日あたりごみ排出量については、全体で 808 g ということでございます。長野県全体の 838 g を下回っているということになります。
- 平成 27 年度の県民一人一日あたりごみ排出量の実績については先ほどお話ししたところですが、836 g ということです。これを見ますと、飯山市は平成 27 年度で 827 g となっております。平成 26 年度と同様に、県全体の数値を下回っているという結果でございます。
- 県下の順位で見ますと、決して高い訳ではないのですが、全国的なレベルで見ますと現在の市区町村数はだいたい 1,718 くらいですので、よい順位ではないかと思えます。
- 下のグラフについては、飯山市の一人一日あたりごみ排出量の推移をグラフ化したものですが、生活系ごみについては多少波があるものの、事業系ごみは増加傾向にあるということでございます。
- また、資料 4 の中で見ていただきますと、各年度とも上位に食い込んでいる徳島県の神山町という自治体がございます。
- なぜ、ごみの排出量が少ないのかということですが、理由は、町内にエコパーク寒川のような焼却施設が無いため、町としては生ごみを回収せず、各家庭で埋めるなどして処理をお願いしているということでございます。
- あと、過疎化や高齢化でごみの量自体が減っていることが背景にあるということで、各家庭の取り組みとしては、生ごみ処理機やコンポストを使って堆肥化をして、畑などで処理するのが一般的になっているということでございます。
- これについては、エコパーク寒川のような焼却施設が無いことかなせる業ではないかと思えます。あと、長野県の川上村も結構上位の順位に食い込んでいるのですが、焼却施設はあるのですが、老朽化などしているため、生ごみは回収せずに自家処理をお願いしているというようなことが背景にあるそうです。資料 4 の説明については以上でございます。
- 続いて「(3) 今後のごみ減量施策のあり方について」ということで、資料 5 の方をお願いいたします。
- これは素案ですが、まず、ごみ排出量（処理量）の現状ということでございます。

- ・今の資料1から4で、何がどのような傾向にあるかということが概ね把握していただけたかと思いますが、掻い摘んでお話をさせていただきますと、家庭系については減少傾向にあり、これは正に市民の方の努力の賜物ではないかということでございます。
- ・半面、事業系についてはやはり増加傾向。断言できませんが、新幹線の飯山駅開業に伴う交流人口の増、大型店舗出店による経済効果ではないかと思えます。
- ・数値上は、長野県の目標値一人一日あたり800gまであと一步というところでございます。
- ・続いて、ごみ減量の課題でございますが、一般家庭での減量はおそらく限界なのかなと。
- ・ただ、先日お話があったように、一部の若年層については分別にとかく無頓着なところがあるということでございます。
- ・あと、新幹線効果による交流人口対策、事業系一般廃棄物の対策については、事業系一般廃棄物として出されるごみのうち、何か多いのかを分析する必要があるということです。
- ・最後に、ごみ減量施策の方向性として、一人一日あたりの排出量については長野県の目標値を目指していくと。飯山市について見ますと、ミニトマト約1.5個分というところでございます。
- ・先日もお話がありましたが、現在の分別や減量方法を親から子へ繋げていくことが必要ではないかと考えております。
- ・また、現行のごみ減量施策を踏襲しつつ、新たなごみの減量ツール、具体的な手段ですとか、何かしらの方法ですが、こうしたものを新しく切り開いていく必要があるのではないかと思います。
- ・他市町村でも色々と取り組まれている事例はあるのですが、斬新的なアイデアは積極的に活用していくということです。
- ・事業系一般廃棄物の組成把握に努め、どのような物が多いかということ把握し、その割合が多いものに着目して減量をしていくということです。
- ・ごみ減量ツール+αということで、減量と呼びかけるだけでなく、ごみを出す方の利便性向上を検討する必要があるのではないかとということです。
- ・資源物日曜回収の見直しですとか、先進的なところで言いますと、ごみ減量アプリを導入している自治体がございます。例としては、この日は何のごみを回収しますよ、ということを事前にスマホのアプリでお知らせするとか、そういったシステムの導入などございます。
- ・多少費用はかかってしまうのですが、今後、審議を重ねていく中で、導入の必要性などを考えていただければと思います。
- ・事務局としてはこの素案に肉付けをしていきまして、最終的に答申としてまとめていければと思いますので、ご審議をお願いしたいと思います。以上でございます。

(会長)

- ・ありがとうございます。
- ・それでは、いろいろと資料を見せていただいたのですが、どうでしょうか。

(事務局)

- ・まずは、最初にお話させていただいた搬入区分別ごみ処理量の推移とか、このあたりでご意見をいただいて、その後、それを活かした素案をどうするかということでお話いただければと思いますが。

(会長)

- ・資料を見させていただくと、(ごみが) 増えていると思っていた割には、多少は下向きと言うよい方向もあるということですね。

(事務局)

- ・そうですね。ここ 10 年間で 2 回の廃棄物減量等推進審議会を開催させていただいた中で、委員さんからご意見を賜った部分を反映させて、減量に取り組んできた部分もございます。
- ・市民の方々に努力いただき、今の推移に達しているというところがありますので、先ほどもお話をさせていただいたように、市民の方についてはかなり努力をさせていただいているのではないかとこのところではあります。

(会長)

- ・皆さんどうでしょう。鈴木さんどうですか。

(委員)

- ・気になるのは、事業者のごみ、外からのお客さんや大型店とか仕方ないのかというのが、今一番感じていることです。

(会長)

- ・寒川の所長さん、持ち込まれる事業系のごみはやっばり多いですか。

(委員)

- ・先ほど話があったように、駅前に大きなスーパーができたことも影響していますかね。
- ・また、独り暮らしだった家のごみが結構来ますね。家の整理のごみが多いことが目立ちますね。
- ・特に今年は、シルバー人材センターの関係で、剪定枝を大分持って来ていますね。時期的なものだとは思いますが。確かに事業系が増えていますね。
- ・それと、今年は 4 月から 7 月で、もえないごみも今のところ増えています。

(事務局)

- ・今の独り暮らし老人の家屋の整理は、ここだと直接搬入分のところに入りますか。

(委員)

- ・そうですね、直接搬入ですね。2 t 車で 1 日に 3 台、4 台と持ってきたりします。

(事務局)

- ・そういう影響が大きいかも知れませんね。

(委員)

- ・そうですね。

(委員)

- ・家屋の解体などは、産廃業者がそれぞれ分けて持っていくのでは。

(委員)

- ・個人でまめに壊して持ってくる分にはよいです。自分で壊して、少しずつ持ってくるのは。

(委員)

- ・家屋解体は産廃業者が区分けして、それぞれ産廃処理場で処理されるものだと思います。

(委員)

- ・殆どはそうです。自分で壊して、業者を通さず自分で持ってくるためには、柱とか細かく切ったりします。
- ・なかなか大変だから無いですけど、ちょっとした物だったら節約のためということで持って

くる方もいますね。

(会長)

- ・産廃業者は、そっち（エコパーク寒川）へは持って行かないのですか。

(委員)

- ・産廃は駄目です。

(委員)

- ・産廃業者が自分たちで引き上げた、家の中の細かいごみという具合で考えていたのですが。

(委員)

- ・あとは「合わせ産廃」。地元の小さい企業を助けるということから、そういう物は受け入れています。どこの自治体もそうですけど。

(会長)

- ・佐藤さんいかがですか。

(委員)

- ・今、「断捨離」とか見直されているので、益々これから粗大ごみが増えると思います。
- ・亡くならずとも自分が元気なうちに、という方が増えてくるとは思いますが、それを出しちやいけないというのも…。

(事務局)

- ・粗大ごみのような臨時的なごみは出せないという制限は、おそらくできないと思います。

(委員)

- ・そうですね。うちにも沢山溜まっていて、「やらなきゃ」って思いながら目を背けている状態です。
- ・今までの世代の人たちは、家が広いからといってそのまま置いておきましたが、今の時代は子どもたちに迷惑をかけないように、今のうちにやりましょうという話しをよく聞くので、益々増えてくるとは思います。
- ・だからと言って、それを対処する方法もよく分かりませんが、それは事業者よりも大変かと思っています。

(会長)

- ・小市さん、いかがでしょう。

(委員)

- ・確かに、7月はごみ減量推進月間ということで、衛生委員さんと区長で協力し、ごみの分別をしっかりとしましょうという取り組みは集落でやりましたが、今年度、ごみステーションの方は効果があったのですね。

(事務局)

- ・そうですね。ごみステーションのごみについては、数字上からは効果があったのではないかと思います。

(会長)

- ・でも、ステーションのごみを少なくしようと、区で衛生委員さんと一緒に見てもらったりするのは凄いですよね。

(委員)

- ・一応、チラシなど貼ったり、集落では区の便りに載せたり、もちろん市報にも載っています

けど、改めて集落ごとに意識を高めるために、通知を出している集落もあります。

(会長)

- ・丸山さん、いかがでしょう。

(委員)

- ・普段のもえるごみは、減らそうとして減らすことはできても、粗大ごみを減らすということは外に持っていくことになるため、逆にそっちが増えていくことになりますよね。
- ・20年前に引っ越しをしたときの物がそのまま残っていて、子どもたちの世代にするには、それをまた出さなきゃならない。そうすると粗大ごみが増えてしまいますね。

(会長)

- ・藤田さん、いかがでしょう。

(委員)

- ・私も、何とかしなければならぬごみが山のようにありますが、私もちょっと昔の人間なので、自分自身はもったいないと思ってしまいます。
- ・広告一つ捨てるにも抵抗があつて、「裏が使えるのに」って思うと、捨てられないところがあります。
- ・でも、それは結局ごみを溜めていることになる。自分の意識を変えないと駄目だと思います。
- ・資源物日曜回収の見直しというのがあるが、私も家のことをあまりよくやっていないので分かりませんが、小学校のPTAで新聞紙や段ボールを集めますというチラシが入ると、それに合わせて出すよう準備はしていますが、あまり多くないので、資源物日曜回収は市役所でやると聞きましたが、少し離れているところは市役所まで行くのが大変だと思うので、活性化センターのようなところで同じことをやってもらえばいいと思いました。

(職務代理)

- ・粗大ごみは、これから増えると思います。この間、たまたま家の近くで昔の物置を解体するところがありまして、通りかかって見ていたのですが、解体そのものは解体業者に頼んでやっていますが、事前に中にある家具などは自分でエコパークへ排出してしまいます。
- ・ということは、その解体業者に一括して頼むと、その排出量が多くなるから、経費を少なくするために自分で運べば、それだけ経費もかからずエコパークで処理してくれるのかな、と。
- ・先ほど、他の方もおっしゃったように、昔の人は親からの物を使っていたけど、今は新しい物に買い換えてしまうことになるから、これからはもっと増えるような気がしますね。
- ・それと、さっき新聞紙の回収とか色々ありましたが、地域の子ども会は子どもが少なくなってきましたよね。
- ・子ども会では、空きびん集めを年2回しかやらない。2回しか、という言い方はよくないけれど、そのくらいしかできていない。
- ・以前は、古紙もやっていたけれど、最近は全然やらないし、婦人会でも自分たちの資金集めのためには独自の活動でそういうことをやっていたのですが、最近はそれもやらなくなってしまった。
- ・地域ごとにやってもいいけど、一回やると相当な量が出ますから、もっと活用方法があればという気もしますけど。

(会長)

- ・今日の一番のポイントは、資料5にある「今後のごみ減量のあり方」をどうしたらよいかを

話し合わなければならないですね。

(事務局)

- ・そうですね。

(会長)

- ・今、色々と資料を見せていただいたり、お話しをお聞きして、やはり粗大ごみというのはこれから増えていくのではないかと思います。
- ・ステーションへ出すごみは、そんなに増えてはいかないかもしれないけど、どうでしょうね。
- ・今、現状をお話しいただいたのですが、その課題についてどうでしょう。

(事務局)

- ・そうですね。課題については先ほどお話しさせていただいたように、確かに市民の皆さんに頑張ってもらっている部分は評価できると思うのですが、前回の審議会で高橋さんがおっしゃったように、若い世代は無頓着なところがある、それはやはり親から子へ繋げていく必要があるのではと思います。

(会長)

- ・そのことで思うのですが、小学校の回収をするのは小学校の子を持つ親が中心になってやるから、それが増えてくるようになると、若い人が「ああ、そうだな」と感じられるようになるのかな。子どもたちが少なくなっているのは現状だけ。

(事務局)

- ・PTA活動としては、今も春と秋の年2回の集団回収をやっているところもありますが、子どもと親の人数が減ってきている中で、多くは年1回になってきてしまってます。
- ・人数が少ない中で、色々なPTA活動をやろうとすると、年1回が限界なのかと感じます。
- ・PTAに頼ってもよいかと思いますが、PTAの意識や、人数の取り回しが利くかどうかですかね。

(委員)

- ・学校の資源回収で集めない物が、エコパークに回ってくるということはありませんよね。

(事務局)

- ・それはないです。

(委員)

- ・資源ですから、新聞、雑誌、段ボール、一升びんやビールびん等はいれられないので、その辺りは影響が無いかもしれないですね。

(会長)

- ・学校では、資金を集めて図書館の本を買ったりしていますものね。

(委員)

- ・小学校が春で、中学校が秋なので年2回はありますよね。

(事務局)

- ・市とすると、資源物は回収できているという解釈かな。

(事務局)

- ・そうですね、ある程度は。

(事務局)

- ・小学校、中学校と続いても、資源物は基本的に資源物として回収ができていて、一般のごみ

には混ざらない、という解釈か。

(事務局)

- ・そうですね。

(事務局)

- ・じゃあ、きっとそんなに増えることは無いかもしれないですね。

(委員)

- ・それを問題にする必要はないということですね。
- ・例えば、資源物になるはずなのに、もえるごみの袋に入っているということはありますか。

(事務局)

- ・それは分別上の問題だと思います。意識して分別していただかないと、佐藤さんがおっしゃるように、もえるごみの袋に入ってしまうという可能性は十分にあります。

(委員)

- ・資源ごみは寒川に関係ないので、それはいいけど、例えばもえるごみの中に資源になるびん等と一緒に混ざっているということになれば、それは問題にしなければならないということですね。

(事務局)

- ・そうですね。適正な分別を心掛けていただくようにしていく、ということですかね。

(委員)

- ・世の中が凄く便利というか、消費者にとってはよい世の中なので、お店から買ってくる物は本当に綺麗に包装されていますし、少しも困ることが無いけれど、比例してごみの量が増えるというのは世の常かなと、生活が便利になればなるほど、ごみの量は増えていくのかなと思います。
- ・その中でもごみを減らさなければならないというと、我が家のことを考えると紙類を捨てるというのが多々あって、どのくらいの大きさの紙ならよいかという意識もまだしっかりできていないから、「このくらいの大きさの紙」というのを各家庭にモデルとして配って、それと併せて「このくらいの大きさの紙は、ここに入れましょう」みたいな箱をセットで配って、その箱がいっぱいになったらごみを持って行けるというようにしないと、各家庭で「これくらいの大きさの紙は資源になります」と言われても、そこまでやるのが難しいというか、家庭で小さな紙を別のごみ箱（袋）に入れて保管しておくのも中々やりにくいので、家庭で紙類が多いなら、その紙を捨てない方法というか、対策を考えていく必要があると思いました。

(会長)

- ・そうですね。この前の会するときも、古紙が多いという話が出ましたね。

(委員)

- ・ごみ質でしたっけ、紙が3割、それを減らしただけでも。

(委員)

- ・包装紙に付いているセロファンテープは、取らないといけないのですか。

(事務局)

- ・できれば取っていただいた方が。

(委員)

- ・気持ちがあれば取りますが、そのままたたんで、古紙にしてしまう場合も。

(委員)

- ・ティッシュボックスの取り出し口にもセロファンがありますが、剥がして潰しています。
- ・たたんで、その他の紙や資源ごみでよいと言っても、一手間かけて剥いでいます。

(事務局)

- ・セロファンテープは別として、ホチキスやクリップは付いていても大丈夫です。

(委員)

- ・それと、雑誌を資源ごみで出すときに束ねますが、雑誌は綴じてある方向を全部揃えた方がよいのでしょうか。

(事務局)

- ・まとめてあれば、向きは関係ありません。

(委員)

- ・ある人の話しでは、束ねてある雑誌を機械で切断する際、綴じてある方向が一定だとそのまま切断できるけど、「ちぐはぐ」になっていると都合が悪い、具合が悪いという話しを聞いたので。

(事務局)

- ・各家庭から集めた古紙は、業者の工場で紐をばらして、1 m角くらいのサイコロ状に圧縮して、番線で締めます。

(委員)

- ・出す側とすれば、具合がよい方法でやりたいという気持ちがあります。

(事務局)

- ・雑誌などは「ばらけない」よう、きちんと縛ってあれば大丈夫です。

(委員)

- ・前回の話しを飯山くらしの会でお話しさせていただき、会の方から「衛生委員さんが代わるたびに衛生委員さんを集めて、分別の確認など説明会をやってもらうことは必要なのではないか」、そういう場を設定していただければ、くらしの会のメンバーが手伝いに行くというような話しもいただきました。

- ・ごみ減量の課題にあるように、若年層にどうやってアプローチするかについては、同居している方はよいかと思いますが、核家族化が進んでいる感じで、アパート住まいの方が難しいのかもしれませんが、i ネットなどを使ったりして、今出された素朴な疑問など、ちょっとしたことを映像で見せてあげるというのも方法ではないかと言われました。

(会長)

- ・i ネットを活用してはどうか、ということですが。

(委員)

- ・若い世代だと、i ネットに入っていない方もいるのでは。観る時間が無い人もいますよね。

(職務代理)

- ・チラシみたいなものは、有効のような気がします。
- ・ある年代の先輩方は、分別が悪くて残された物でも、一回はとにかく衛生委員が処理し、二回続いたら、その人に連絡すると言っていました。
- ・今の分別方法が始まって一年や二年だったら、やむを得ないですが、もう何年も経っていま

す。今更、そんなことを言う必要も無いということで、そうなれば即、その人へ連絡するようにはしていますが、そういうこともあるし、分別が悪い、こういう理由で残されたということ全部箇条書きにして回覧したら、意外と少なくなってきました。

- ・ さっき、色々な紙類を減らすために、漫画的なものを書いてもらってはどうかという話がありました。
- ・ 文字だけでなく、色々な書類の封筒が来ますよね。封筒の宛先が見えるよう、セロファンで作られていて、それをはさみで切る。
- ・ 切り取るのは大変だけど、あとは資源ごみの方に回せるわけですよ。
- ・ 文書はちらっと見るだけになってしまうから、漫画などを加えて関心を持つようにしてもらってはどうかという気がします。
- ・ この前、7月のごみ減量推進月間ということで、あるステーションに立って見ていたことがあります。
- ・ 「今、減量月間なので協力をお願いします」と付けた看板を指さしたら、「えっ、何ですか？」という人が結構いるし、見てくれていないものだとがっかりしました。
- ・ それで、その人が最後に何を言うかと思ったら、「野焼きをしては駄目にしたのだから、ごみが増えるのは当たり前じゃないか」と、そういう逆の方向へ考える人もいます。

(委員)

- ・ 昔は皆、近所の自分の畑で燃やしていたから少なかった、ということも感じられるかもしれませんね。

(事務局)

- ・ 理屈はそのとおりかもしれません。

(委員)

- ・ 特に、農村部は自分の土地がある。

(職務代理)

- ・ さっき、所長さんが言われたように、シルバーで庭木の枝などを持ち込まれるようですが、今、運動公園のところで細かく粉砕していますが、あの機械は一台しかないのですか。

(事務局)

- ・ 一台だけです。

(職務代理)

- ・ 公園整備をされている方がいつも使っているような気がするけど、一般の方が持ち込んでるのは少ないように見える。ああいう物をもっと活用できれば。
- ・ 希望すれば破砕できるわけですよ。

(事務局)

- ・ 枝の太さなどにもよりますが、そんなに太くなければ処理できます。問い合わせがあれば、長峰に持って行っていただくよう案内しています。

(職務代理)

- ・ 野焼きはいけないと言っても、隠れてやっている人はまだいるわけだ。家に庭木は結構あるし、剪定すれば当然発生するわけなので、今回、どの程度出たかは分からないけど、そういう物の処理も必要なのではという気がします。

(会長)

- ・ i ネット、チラシ、それから今のごみの出し方の漫画のようなものを書いてステーションに貼るとか、大分、参考になる意見が出されていますが。
- ・ 年に一回か二年に一回、市からごみの出し方のチラシが来ますよね。ああいうものを雨に濡れても破れないような感じで、ステーションに貼っておくと、出し方が分かるかな。

(事務局)

- ・ 以前は、ごみステーションに置けるようなものがあつたと思いますが。

(会長)

- ・ ああいうものがあると、若い人がごみを持って行ったときに見てくれるといいかな、と思ったりしますね。

(委員)

- ・ 子どもが東京にいますが、東京でも地域ごとに分ける物があるかもしれないけど、もえるごみもプラスチックでも同じ袋に入れているので、そういう子たちが飯山に戻ってきても知らないというか、チラシなりで教えないと分からないと思います。
- ・ 子どものときに飯山にいて、そうやっついても、都会で何でも全部一緒にやっていたのが何年か続いてしまうと、こっちへ来ても同じような意識になっているから教えないと。
- ・ 帰ってきてても、家でなら教えられるけど、若い世代で住むとなると。

(会長)

- ・ 関心を持つか、持たないかでね。

(委員)

- ・ 難しいですね。

(会長)

- ・ ここにもあるように、飯山市はミニトマト約 1.5 個。そう言われると、本当に少ない量だと思うけど、それが沢山になるとやっぱり。

(委員)

- ・ ここに、平成 14 年から 28 年までのものがありますが、飯山市のもえないごみは、平成 15 年と比べると平成 28 年は半分になっていますね。
- ・ ただ、可燃だけは 10 年以上経ってもあまり変わらないですね。
- ・ 不燃は、びんとか缶がメインなので、きっと観光人口が減ってきた影響かと思います。

(委員)

- ・ もえるごみの中に含まれている紙を、もう少し分別して区分けするような努力をしていかなければなりませんね。

(事務局)

- ・ 前回、エコパーク寒川で紙が一番、次にプラスチックで布、生ごみの順に多いというので、この紙を何とかしようという意見が出ています。

(会長)

- ・ シュレッダーにかけると、それは全てもえるごみになってしまうから、とは言っても個人情報があるし、という話が出ましたよね。

(委員)

- ・ 衛生委員さんは嫌われるついでに、各地区の公会堂のごみを分別するだけでもちょっとは違うかと思います。

- ・オードブル皿をプラで出すなど、そこを衛生委員さんが世話を焼いてくれると、随分とごみが分別されると思います。
- ・福寿町も、最近は頑張っで分別されるようになってきました。個人より、公会堂のことなら誰も恨まないと思います。

(委員)

- ・綺麗に洗わないと駄目ですよ。

(委員)

- ・そうですね、ざっと流せば。
- ・残った物は、悪くならない時期なら持ち帰っていただくとか。結構、飲み会もありますよね。缶だのびんだの出るし。あのオードブル皿が凄く印象にあります。

(職務代理)

- ・おっしゃるとおりですね。各地区で色々な役員会があつて、それに限らず集落のグループの集まりが。
- ・大体、そこには飲み食いが付いて回っている。その処理は、汚れた物は全部もえるごみに突っ込んでしまっている。

(委員)

- ・汚れの落ちない物はもえるごみと書いてあるので、結局、汚れているからという考えですよ。あと、お酒を飲んだあとだから、酔っていて片付ける人がいない、みたいな感じになってしまうのでは。

(職務代理)

- ・片付ける役員は、コップとかは仕方なく洗うけど。

(委員)

- ・洗うのが大変だから、紙コップや紙皿にしようとかに変わってきています。当番が凄く大変なので。
- ・グラスは置いてあるけど使わないで、紙皿やプラスチックのコップを使う感じになって、結局、それはもえるごみになっているということです。
- ・私が最初に見たとき「これは汚れているから」と言つて、みんなもえるごみに入れていて、「それは洗つてプラスチックに入れた方がいいと思う」つて声をかけて。
- ・私がある会議のときには分けてもらっているけど、知らない会議はどうなつているか分かりません。当番制になっているので、当番の人が自宅に持ち帰つて分けているのか、集落の名前を書いてそのまま出しているかは見ていないので分からないですけど、結局、「これ汚れているから、全部一緒にいいよ」と言っている人もいますよね。

(職務代理)

- ・他のところはどうか分からないけれど、自分のところだと一ヶ月の間に相当な数の会議があるわけで、そこでは殆どもえるごみの中へ突っ込んで、公民館活動などで子どもたちが大勢出たときに飲み食した物は、もえるごみ(の袋)が四つくらいにまでなつてしまつてしまいます。

(委員)

- ・一月の総会とか、村の人が皆いるところで話しを出さないといけないですか。

(職務代理)

- ・呑んでよい気分になつた人が片付けをしたりするのは大変なことですけど、本当はそこまで

やってもらえれば一番よいですね。嫌われるついでに、ちょっと目を光らせた方がよいかと。

(委員)

- ・集落サロンの世話人をやっているのですが、チラシには必ず「マイカップを持って来てください」と入れています。忘れてしまう人がいるので、公民館の茶碗を出してもらっていますが、今度は区長さんを通じて、飲み会のときにはマイカップ・マイ箸・マイお皿を持参してもらい、終わったらそれを持って帰ればよいので、そういうことを各区で始めれば、プラスチックのコップや紙皿を使う必要が無いので、「用意してありません」と書いてしまう。

(委員)

- ・うちは逆を行っています。
- ・お当番さんが大変だから、そのお皿は使わずに、「こっちに紙コップや紙皿があるから」のような感じになっています。市の方針という形になれば言いやすいとか、そういうのもあると思います。

(委員)

- ・私の集落の公会堂はかなり前から、自分たちが使用した後のごみは全部持ち帰るという張り紙がお勝手のところに貼ってあります。だから、お茶殻にしろ、紙コップとか紙皿も飲み食いすればごみで出ますけど、それは使用した団体が責任をもって全部ごみは持ち帰るので、公会堂にはごみ箱がかなり前から置いてないです。

(委員)

- ・持ち帰ってはいますが、その後がどうなっているか分かりません。

(委員)

- ・私たちが月に何回か公会堂を使用しますが、行ったときはいつも同じ状態で、雑巾や布巾が干してあるだけで、ごみ箱はありません。それが定着しています。

(委員)

- ・ごみ箱はなくて、一応、役員さんが持ち帰るようにはなっていますが、その後どうしているのか。

(委員)

- ・役員さんが家に持ち帰り、それなりに処理されていますけど。

(事務局)

- ・持ち帰っている集落はあります。うちも持ち帰っています。ごみ箱は置いてありますが、紙がぱらぱらと入っている程度で、後はみんな持ち帰っていますけど。
- ・今の話を聞けば、持ち帰っていないところもあったり、持ち帰った以降の分別もどうなっているかそこまで承知していないので、帰りに役員さんがごみステーションに出してしまうかもしれないし、分かりませんが、その辺も併せて、そういったところの徹底は必要かもしれません。
- ・公的な部分でのごみの分別の徹底は、衛生委員さんにもお力添えをいただくようになるかもしれません。

(職務代理)

- ・持ち帰っても、自分の家族ではなく誰が食べたか分からないような考えになってしまうと、そのまま（もえるごみに）突っ込んでしまうようになってしまいます。だから、その辺で上手く分別ができるような方法でもあれば。

(委員)

- ・やっぱり、使わないのが一番だと思います。使わない方法を考えていかないと。
- ・一度使ったら便利で、使うのをやめるといふわけにはいかないので、使わないで済む方法を考えて行かなければならない気がします。
- ・区の総会等をやった後に飲み会があるんですけど、そのときには（箸やコップなど）持参でというのを各家庭に周知して、きっと初めは皆が持ってくるなんてことはできないと思いますが、そういう人が一人でも増えていけば、やがては大勢の人ができるようになるような気がするので、些細なことだけど、ちょっと皆が「ずく」を出せばということから始めるのがよいのではないかと思います。

(会長)

- ・今のやり方、プラスごみを出さない方法。それには使わないということと、ちょっと一手間「ずく」を出す。それを徹底しないと。

(委員)

- ・飲み会の最後の後片付けは男の人がやっていますが、絶対、分別はしていないと思います。自分も、いい気分になっているのだから、早く帰りたければそれなりの方法を探るのではないかと思います。

(委員)

- ・皆、家に持ち帰って、自分の家のごみと一緒にステーションに出しているのだと思います。

(事務局)

- ・今のようなご意見を頂戴しながら、資料5の部分に肉付けをしていくという感じで考えております。なるべくボリュームを膨らませることと、中身の濃いものにするということが一つかと思ひます。

(職務代理)

- ・今、飯山市には外国人がどのくらいいるのか分からないけど、そういう人たち向けの広報的なものは、やるほどの人数はいないのですか。

(事務局)

- ・観光で訪れる人という意味ですか。

(職務代理)

- ・観光もそうですが、住んでいる人ですね。

(事務局)

- ・登録上は200人くらいですが。

(委員)

- ・そういう方たちもアパートに住んでいけば、当然ごみは出しているということですよ。

(事務局)

- ・そうですね。それは、飯山市民一緒ですから。

(委員)

- ・その人たちのところに市報は届くけど、読めているかどうかは分からないということですか。

(事務局)

- ・そうですね。そこは微妙なところがあるかもしれませんが、一応、周知はしています。

(職務代理)

- ・どこの市町村か分からないですが、韓国語、中国語など四つほどチラシなどを作ったと聞きました。飯山市はそんな心配をする必要は無いのかな、と。

(事務局)

- ・きっと、群馬など外国人労働者が多いところは、そういうものも必要なのかもしれませんが。
- ・飯山市は、登録人口からすると 200 人程度ですので、どうでしょうか。そこまでやった方がよいとは思いますが、労力のかけ方からすると、別のところへかけた方がいいような気がします。

(職務代理)

- ・各地区の衛生委員であまり問題になっていなければ、まだ先の話かな、という感じもしますが、たまたまそんな放送を聴いたものですから。

(事務局)

- ・補足ですが、皆さんに二年に一度くらいにお配りしている分別の本があると思います。少し前に、中国語版を作りました。
- ・きのこ屋に中国人の方がまとまって労働に来ておられて、その方たちの分別があまりよくないとの指摘を受けて作らせていただきました。
- ・あと、長峰の工業団地あたりの外国人の方については、会社で世話人さんがいて、分別の指導をしてくださっているという話を聞いたことがあります。

(会長)

- ・では、肉付けをしていただいて、今後はどのようにしていけばよいですか。

(事務局)

- ・今回、頂戴した意見を踏まえて、素案の部分をボリュームアップしていきますので、更にご意見や、加えた方がよいという部分を頂戴し、形にしていけたらと思います。

(事務局)

- ・会議はあと何回の予定か。

(事務局)

- ・あと三回ほどで、確か最後の三回目に答申の確認だったと思います。

(事務局)

- ・この素案の箇条書きのところに文言が入り、何で必要なのか、何を目的にしてどういう目標にしていくのかを入れながら作っていき、今のご意見等も加えていくと。
- ・今日のご意見としては、一人暮らし老人の家屋の整理などで粗大ごみが増えており、この減量をどうするかということ。
- ・それから、エコパーク寒川のごみの種類からいうと、紙、プラスチック、そういったものが非常に多いという中で、紙類の回収・分別の方法について検討を加える。
- ・また、プラスチックについても同じように検討を加えるということ。
- ・ごみ減量の意識が市民に必要であり、そのことについてのPR・チラシ・i ネットを活用する、分かりやすい漫画のようなものを加えてチラシを作らせていただき、PRを図っていく。
- ・それと、公的行事でのごみの分別の徹底。集落の公会堂等の関係について、衛生委員等も入っていただく中で、分別の徹底を図っていくということが、今、出された意見だと思えます。
- ・それを加え、肉付けをさせていただくと。
- ・前回の意見でも加えないといけない部分もあるので、それも入れさせていただいたりしながら

ら、今度は方針に近いものを出さないと間に合わないと思いますので、それに近いようなものを出させていただき、全体を見ていただいて、そこに加えるものは加える、削るものは削らせていただければと思います。

(会長)

- ・何か思いついたら、肉付けをしたところに更に肉付けをしていただくという感じで。

(事務局)

- ・そうですね。
- ・三回といっても、実質、あと二回やって三回目は確認くらいの感じでない、間に合わないと思いますので、そうしていただければと思います。

(会長)

- ・では、地域へ帰って、こんなところがあったとか、こういうのは見直した方がよいとか、公民館の中など見ていただいて、次回には肉付けされたものをもう一回検討させていただきたいと思います。
- ・次回はいつ頃ですか。

(事務局)

- ・次回は9月を予定しています。もしよろしければ、この場で9月の日程を決めていただければと思います。

(会長)

- ・次は、9月25日(月)の午後1時半でよろしいでしょうか。

(決定)

- ・今日のところは、こんな感じでよろしいですか。

(事務局)

- ・ありがとうございます。では、事務局から2つほどお願いします。
- ・審議事項の「(4)その他」で、ごみ組成調査の実施とあります。
- ・夏と冬場にごみの組成調査を実施しており、冬場は毎年実施しておりますが、夏場は一年おきにやっています。
- ・今年は8月21日(月)と22日(火)に予定しております。次回の審議会ของときには、このごみ組成調査の結果を併せてお示しできればと考えております。

(委員)

- ・ごみ組成調査が、どういうことなのか分からないのですが。

(事務局)

- ・ごみステーションからごみ袋を無作為にピックアップして、エコパーク寒川でそれを開け、何がどのくらい含まれているかを見ます。
- ・今回は予定していませんでしたが、以前、審議会の開催と絡めて行っていたこともあります。
- ・あと、7月30日に資源物日曜回収というのを市役所の駐車場近辺で開催いたしました。数値的な報告のみになりますが、そのときの報告を手塚さんからお願いします。

(事務局)

- ・口頭での報告となり恐縮ですが、7月30日に資源物日曜回収を行いましたので、結果だけ

お知らせします。

- ・まず古紙類ですが、合計で2,480 kgありました。前年同時期の回収と比べると、80 kgほど多かったのですが、内訳の中で新聞が前年より少なめでしたが、その分、雑誌が多かったので、前年に比べて80 kgの増となりました。
- ・ガラスびんの関係ですが、全体で960 kgの回収がありました。前年同時期の回収と比べますと110 kgほど少なかったのですが、今回は「その他の色」のびん類が少なめだったというのが影響していると思います。
- ・ペットボトルは60 kg回収、前年同時期の回収と比べ、10 kgほど多かったということです。
- ・古着は計量しておりませんが、車の台数でいうと軽ワゴン車2台に詰め込んだ量でした。
- ・併せて、使用済み小型家電の回収を行いました。全体では3,228.2 kgでした。前年同時期の回収では2,545.4 kgでしたので、約683 kg増えたということです。
- ・きっと、家にたくさん溜めてあったのだろうという印象を受けたのですが、パソコンや携帯端末も併せて集めていますが、3,228.2 kgのうち、パソコンや携帯端末の類は178.2 kgということで、これだけ見ると前年より147 kgほど減っているのでも、回収業者もこの辺の需要は段々と少なくなってきているのではないかと感じているところはあるようですが、今回、その他の家電がたくさん集まりましたので、「行き場に困って不法投棄」ということの防止にも繋がっていると感じています。以上です。

(事務局)

- ・ありがとうございました。
- ・資源物日曜回収は、毎年、概ね7月と12月と3月に実施しておりますが、7月は年間通して一番少ない月になっています。
- ・今回も、例年と同じような数値になっていますので、12月と3月の回収に期待したいところです。以上でございます。

(会長)

- ・全体を通して、何かございますか。

(特に無し)

- ・では、今日はこれでよろしいですか。色々ありがとうございました。気を付けてお帰りください。
- ・次回は9月25日です。よろしくお願ひします。